

[特集]

いまと、
これから。

いまとこれから
のとつとりの
ための
ボランティア・
地域づくり・
NPOを考える
情報誌

考える。



今回のテーマは「考える。を考える。」です。

哲学的なテーマのようであり、実は日常的なテーマでもあります。「人間は考える葦である」とは17世紀の思想家・数学者であるパスカルの言葉ですが、この言葉の解釈は置いておいても「考える」ということが人間の重要な要素であるように思われます。

毎日は朝食を考えることからスタートして、「明日、何時に起きるか?」を考えながらベットに入るところまで考える」とだらけです。考えることは楽しいことであり、一方でつらい、重たい、しんどいこともあります。自分の将来や家族の介護やローンや人間関係、20年後の日本、世界の紛争などの争い、エネルギー問題、年金や社会保障、広がる格差などなど、ついつい考えるなどを後回しにしてしまう事や考えることを放棄してしまうこともあります。だけど、どこかで「いつか考えなくてはいけない」とも考えている。そんな「考える」について、考え方盛り(?)の大学生の永栄早紀さんと一緒に考えてみます。

まず最初は、「考える」の訓練を兼ねて、編集部の社会人3人(A女性、B女性、C男性・いずれも30代)と永栄さんで「仕事」と「家族」について考えてみました。

考え方1

A 生きるためにお金は稼がないといけない、大事なものだとわかっているんですけど、それと仕事がなんなく、一緒ではないような感じがしているんです。
だから結婚して専業主婦になって、「勤める」を辞めたとしても、仕事はやり続けるだろうな。仕事とは、社会と何かしら関わっていく中で、何かの役割を自分で持っているということかな。それは一生やり続けたいとは思っているんですけど。それが職業でな
くともいいかなと思っています。



COTNENTS

考え方1

考え方2

考え方3

ミニコラム 9

- ・いま、これ、ぶっく
- ・今日もつまみぐい

センターのページ 12

- ・センターからのお知らせ
- ・理事紹介「渡部万里子」

高校生 ing 14

- ・鳥取県立倉吉東高等学校
- ・国際高校生フォーラム



B 私は、最近はそうでもなくなってきたけど、前は自分が食べていけるくらいは絶対稼いでいたいなっていうのがすごくあつ

て。でも、今ふつに勤めていて、今の話みたいに結婚していくくなつたときには、確実に会社辞めて収入がなくなっちゃう。それなつたときにどうするかなって考えたら、でも外には出たいし収入も得たいから、そこでやれる仕事、どこでも自分でできるような何かを持つておきたい。仮に、旦那さんの収入がすぐ多くて自分が稼がなくてもよかつたらどうしますか?

A そうしたら、今の仕事はやめて好きな仕事だけする。(笑)

たいてことやって稼ぐっていうのが一番理想。今それを目指して感じるんですけど。やりたいこととお金を稼ぐっていうのは、うまくいくものかなっていうのは感じます。最低限お金は必要じゃないですか。それをどこまで必要なかなっていうか、そこ

らへんの区切りっていうのはどうなのかなっていう。お金って自分が求めなかつたら最低限でも生きていける。生きていけるくらいのお金つてどれくらいなんだろう?

B 家にいて畑でなんか作つて、仕事とか家の周りで生きしていくだけだったらしいかもしないけど、旅行行きたいとか何かしたいとかでぜんぜん額が変わつてくるね。

C 僕はおそらく今のところ好きなことで生きてきてるんですけど、最近ちゃんと食べれるようになったなって。それは、自分が提供するものにお金を払つていついう人がいるから。逆に言うと自分が提供するものが、他の人がお金を払つてくださると今までなつたなっていう。最終的に、自分がやりたいことで、かつ相手にとってそれが価値があれば生きていける。お金にもなる。

A そほ同じ問題に、大多数のNPOがぶち当たつている。

C でも、どんな仕事もそうですよね。相手がほしいと思わないとものは仕事にならない。(では次のテーマに…)

A 最近すごい思うんですよ。実家に帰りたくないもないんですけど、自分が帰りたくてありますけど、自分が帰りたいってあまり思わなくて。友達とか、血がつながつてない人とは気兼ねなく話せるんですけど、家族に対してあまり心を開いてなくて。家族の定義というかわからなくなつてきて。最近。

A 大学生の時私も同じように感じたな。ずっと一緒にいるのが当たり前だった。でも大学入つたら一人暮らしで、新しい環境とか、周囲に興味あるものがたくさんあつたから、母から来た手紙とかそのままにして。でも、そうできるのも、よくも悪くも離れられないっていう覚悟が決まつたっていうか。

B 自分がこう考えているとか、悩んでいるとか話しても、けつ否定され、「いや、でも」と言わるのが嫌で。SNSでつ

ながつているからそつち見てみたいな感じだし、話はするんですけど、何考えているかとかはあまり言わなくなつちゃつて。でも家族じゃない大人の人には話せる、なんなんだろと思つて。

A 親もひとりの人間だとと思う瞬間つてなかつたですか。小学校くらいの時にあつたんですけど。それまでは絶対的なものだと思ってたのが、ふつうの人なんだと思った時に、一回、親を見ましたと思ったのが、ふつうの人なんだと思った時に、一回、親を見ましたと思った瞬間があつて。親も最初から親なわけじゃないから。

永栄 親になつたら気持ちがわかるのかな?とおもいます。

B うちはちょっと特殊なんで、家庭環境が。うーんと思いませんが聞いてました。でも家族のことでいろいろあつたときは、私は逃げない立場だなっていうのは感じた。ちょっとネガティブな意味だけど。

C もう自分の生活があり、そこが家じやなくなつていてから、「実家」って呼ぶ時点で別のもの。家に帰るつて言わずに、実家に帰るつていう。中にいた人から、別のところの人に。(次ページに)

ある一義的な意味では家族じゃなくなつたのかもしれないですね。家を共有してないから。そして元いた世界（実家）より、

自分で獲得した今の世界のほうが正しいと思いますよね。自分で選び、獲得したものだから。でも、きっともう年を取つてくと、たくさんあるものの一つだうことになるんじゃないかな。

永栄 考え方とかは違つてるけど、金銭的な面は支えてもらつてるから、それも本当は自立したいっていうほうが強いです。

B 私も自立したかったかな。父親とか怖かつたり強かつたりした人が崩れたときに、それまで、そこに守られていて助けてもらうのもなんともなかつたんだけど、関係が変わり、でも金銭的には助けてもらわないといけないのが悔しかつたのは覚えてる。

C 庇護されていない状態の人もいますね。調停員をされている人がいて、その子を少年院に入れるか入れないかつていうときに、実はその子の親は生活保護のお金をバチンコにしてしまうよう

な生活で、その子は自分が食べるのも十分でない。そして非常に走り方引きをして捕まつた。この子に罪があるとし、少年院に入れるのがいいのか、でも入れなかつた場合には家に戻る。

どちがいいか。こうしたことを考えざるを得ないような場合、これは家族なのか。いずれにしても庇護してくれているという前

提が家族や親なのであれば、場合によつては庇護するどころか攻撃される場合もあるわけですよ。

A 何が家族か人によって違うのかもしれませんね。

ところで、考え方って教わつてきましたか？

A 学校で知識や解き方、方法は教えてもらつたと思うんですけれど、考え方として習つたことてあつたかなと今回考えたと

いうか。例えばこの「チョコレート」でもそれをどう捉えるかで学問が違うわけじゃないですか。何からできているかだと化学にならぬし、甘いものを食べる人が求める心理状態だと心理学にならぬし、これを介して人と人がつていうと社会学だし、それはどうして存在するかと考へると哲学だしみたいな。そういうのつて、私は大学に入つていきなり出会つたような気がして。最初面食らうというか。そこまでにそういうこと、考え方の訓練みたいなことつてあんまりしてこなかつたかなって思つてますよ。

永栄 大学入つてレポート書くじゃないですか。やっぱりわからないんですよ、考へることのやり方というか。3年生になつてやつとわかりだしたんですけど、今まで答えを教えてもらつてそれをアウトプットする感じだつたから、自分の考へがそこにならないで

いうか。答えがないものを考へ意味がわからなかつたというか。これが大事だと思つんです。

…と、ここで次のページから「考へる場」や「考へる機会」を提供してくれている取り組みをご紹介します。



「トリの話しba」は、毎月1回開催され、職種、性別、年代関係なく誰でも自由に共通のテーマで話をする企画です。各回10代から60代までの幅広い年代の方が40～60人ほど参加され、テーマに沿つて多くの意見が飛び交います。テーマは「学び」「本と街」「暮らし方」「鳥取の絶景」など月ごとに変わり、鳥取市近辺でテーマに精通した方をゲストに招いて話を聞き、その感想やテーマについて参加者の方同士で話をします。カフェで会話を楽しむようにリラックスした雰囲気で進められます。参加者は4人1テーブルに分かれます。テーブルの中央には模造紙が敷かれ、各自が気になったフレーズや気付いたことなどをスモします。テーブルが変わつた時に、前のグループがどのような話をしていたかがわかり、より多くの発見があるそうです。初めての方同士でも、不思議と会話が弾み、会場はいつも楽しい雰囲気に包まれます。

テーマは話がしやすく、それぞれ人の価値観の違いが出やすいこと季節やイベントとリンクし次の行動に結びつきやすいことなどを基準にスタッフで話し合つて決めるそうです。代表の小谷さんは「普段の生活では

他者の価値観に触れ、気付きを得ることを考へるきっかけに。

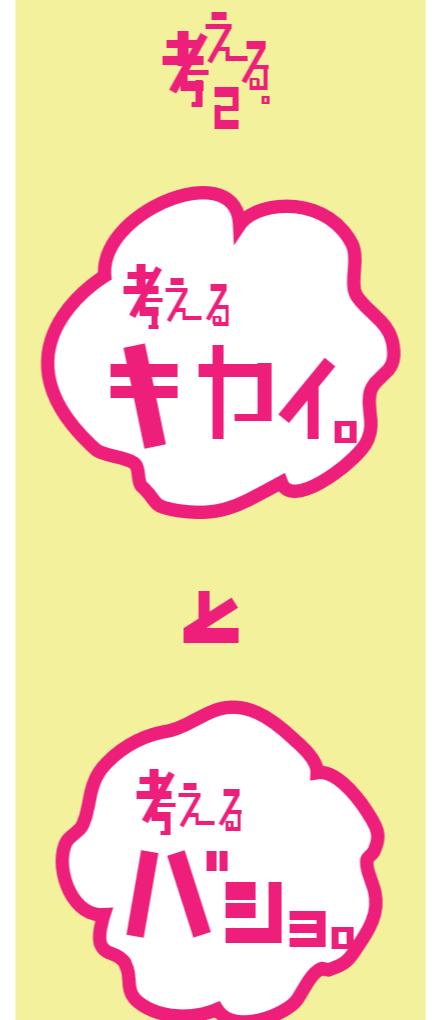
トリの話しba

出会わない人と話ができることに魅力を感じて毎回参加してくださる方もあります。新しい考へに触れることで、視野が広がつたり、自分の中で何か発見があつたり。鳥取の情報なんかも交換できて、鳥取をよりおもしろく感じてもらえたうれしいです。」

と言います。

小谷さんは、5年前に東京から鳥取にUターンしました。Uターン後、移住者向けのイベントなどで普段接することのない職種や年代の方と会話をする中で、他者の価値観に触れるきっかけになつたり、人が集まる」とによつて何かが生まれるんじゃないかと考えました。そして、気軽に集まれる場所や機会を作ろうと思いつきました。「トリの話しba」を始めました。

「トリの話しba」は参加者の方同士で新しい情報や価値観を交換することで、それぞれが自分の生活する街に対しての意識が変わる」とも目指しています。「参加者個人の考へが少し変化する」とつて行動も変わり、それにより街全体が変化すればいいですね」と小谷さんは願っています。



【ご紹介する取り組み】

- *トリの話しba
- *だっぴin鳥取
- *認定特定非営利活動法人 本の学校
- *部落解放研究第43回倉吉市集会実行委員会

小中高の時は、大学では、答へのないことを考へるのがほぼ主だから。最初は考へるこの意味もよくわからなくて。だんだんあんまり考へる人は、だからそれを答へるってことだらうなつていう。そこで引かかつたりは、わりとしなくて。だから社会人になつてから右往左往してるんですけど。

永栄 今教育変わつてるので、私たちの時は先生が話すほつが多かつたけど、今は子どもたちが話すほつが多くなつてると言つてはいるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話しながら考へられることが大事だと思つんです。

C ジヨン・レノンさんの「マジン」という曲、想像しまよ

うと考へるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人みたいつて聞きました、小学校の先生に。

だからそこを答へるってことだらうなつていう。そこで

提が家族や親なのであれば、場合によつては庇護するどころか攻撃される場合もあるわけですよ。

だんだんあんまり考へるけど、答へがあるわけじゃないですか、問題作つ

てる人は、だからそれを答へるってことだらうなつていう。そこで

引かかつたりは、わりとしなくて。だから社会人になつてから右往左往してるんですけど。

B 私はあまりそれがなかつたなと思うて。たぶんあんまり考へるんですけど、答へがあるわけじゃないですか、問題作つて

てて、こうやつた誰かと考へを話せることや話しながら考へられることが大事だと思つんです。

永栄 今教育変わつてるので、私たちの時は先生が話す

ほつが多かつたけど、今は子どもたちが話すほつが多くなつてる

と言つてはいるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話しながら考へられることが大事だと思つんです。

C ジヨン・レノンさんの「マジン」という曲、想像しまよ

うと考へるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話しながら考へられることが大事だと思つんです。

永栄 今教育変わつてるので、私たちの時は先生が話す

ほつが多かつたけど、今は子どもたちが話すほつが多くなつてる

と言つてはいるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話しながら考へられることが大事だと思つんです。

B 私はあまりそれがなかつたなと思うて。たぶんあんまり考へるんですけど、答へがあるわけじゃないですか、問題作つて

てて、こうやつた誰かと考へを話せることや話しながら考へられることが大事だと思つんです。

永栄 今教育変わつてるので、私たちの時は先生が話す

ほつが多かつたけど、今は子どもたちが話すほつが多くなつてる

と言つてはいるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話しながら考へられることが大事だと思つんです。

C ジヨン・レノンさんの「マジン」という曲、想像しまよ

うと考へるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話しながら考へられることが大事だと思つんです。

永栄 今教育変わつてるので、私たちの時は先生が話す

ほつが多かつたけど、今は子どもたちが話すほつが多くなつてる

と言つてはいるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話しながら考へられることが大事だと思つんです。

B 私はあまりそれがなかつたなと思うて。たぶんあんまり考へるんですけど、答へがあるわけじゃないですか、問題作つて

てて、こうやつた誰かと考へを話せることや話しながら考へられることが大事だと思つんです。

永栄 今教育変わつてるので、私たちの時は先生が話す

ほつが多かつたけど、今は子どもたちが話すほつが多くなつてる

と言つてはいるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話しながら考へられることが大事だと思つんです。

C ジヨン・レノンさんの「マジン」という曲、想像しまよ

うと考へるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

永栄 今教育変わつてるので、私たちの時は先生が話す

ほつが多かつたけど、今は子どもたちが話すほつが多くなつてる

と言つてはいるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

B 私はあまりそれがなかつたなと思うて。たぶんあんまり考へるんですけど、答へがあるわけじゃないですか、問題作つて

てて、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

永栄 今教育変わつてるので、私たちの時は先生が話す

ほつが多かつたけど、今は子どもたちが話すほつが多くなつてる

と言つてはいるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

C ジヨン・レノンさんの「マジン」という曲、想像しまよ

うと考へるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

永栄 今教育変わつてるので、私たちの時は先生が話す

ほつが多かつたけど、今は子どもたちが話すほつが多くなつてる

と言つてはいるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

B 私はあまりそれがなかつたなと思うて。たぶんあんまり考へるんですけど、答へがあるわけじゃないですか、問題作つて

てて、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

永栄 今教育変わつてるので、私たちの時は先生が話す

ほつが多かつたけど、今は子どもたちが話すほつが多くなつてる

と言つてはいるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

C ジヨン・レノンさんの「マジン」という曲、想像しまよ

うと考へるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

永栄 今教育変わつてるので、私たちの時は先生が話す

ほつが多かつたけど、今は子どもたちが話すほつが多くなつてる

と言つてはいるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

B 私はあまりそれがなかつたなと思うて。たぶんあんまり考へるんですけど、答へがあるわけじゃないですか、問題作つて

てて、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

永栄 今教育変わつてるので、私たちの時は先生が話す

ほつが多かつたけど、今は子どもたちが話すほつが多くなつてる

と言つてはいるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

C ジヨン・レノンさんの「マジン」という曲、想像しまよ

うと考へるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

永栄 今教育変わつてるので、私たちの時は先生が話す

ほつが多かつたけど、今は子どもたちが話すほつが多くなつてる

と言つてはいるわけじゃないですか。あの時代背景の中で、個人として、ものごとを考へ、想像できる力つて大事ですよね。ただだ言われたことに流されて、そのまま聞くのではなく。そして、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

B 私はあまりそれがなかつたなと思うて。たぶんあんまり考へるんですけど、答へがあるわけじゃないですか、問題作つて

てて、こうやつた誰かと考へを話せることや話ながら考へられることが大事だと思つんです。

永栄 今教育変わつてるので、私たちの時は先生が話す

ほつが多かつたけど、今は子どもたちが話すほつが多くなつてる



「認定特定非営利活動法人 本の学校」 Mail info@honnogakko.or.jp 電話 0859-31-500
〒683-0801 鳥取県米子市新開2丁目3番10号 URL <http://www.honnogakko.or.jp/>
Facebook <https://www.facebook.com/honnogakko>



本棚に並ぶ光った背表紙を眺めるのが好き、三冊重ねてちょうど良い枕の高さ…。考えは尽きません。恐らく人の数だけその関係性のバリエーションはあります。読書についても然り。その深さ、速さ、濃さといったスタイルだけでなく、目的や効果、効用も千差万別。本というものが人の手に渡るようになって以来、読書という行為自体これにまつわるさまざまは極めて個人的な読みであり続けてきました。1994年の秋に登場したWindows95は、それまで孤立していたパーソナルコンピュータを相互に結びつけることを驚くほど容易にしました。それ以降、個人がばらばらに蓄積するに任せていた知識というものが「共有するもの」という新たな性格が加えられ、読書の在りようやその効用の活かし方にも変化が予見されるようになりました。

読書体験の共有がもたらす、新たな価値。

認定特定非営利活動法人 本の学校

ンも全てがネット上で手に入る環境が当然のように整ういま。一文字一文字を目で追つて、理解し、解釈し、吟味する。こんな手間暇かかる読書なんかさらっと迂回して一足飛びに結論を手に入れば簡単じゃん。そんな声に、本の学校が静かに示した一つの回答だといえます。現在を映し出す「鏡」である書店と深く水を湛えた「知の湖」としての図書館は、本の学校の仲立ちによって、この地域に住む私たちにどんな景色を見せてくれるのでしょうか。

屋と図書館の連携を考える「地域社会の豊かな読書環境構築に向けて」と題するシンポジウムが本の学校主催で開かれました。書店人と図書館人とのコミュニケーションを深化させ、地域の人々に豊かな読書生活を提案しようとする活動についての議論が始まりました。

「知の地域づくり」を見据えた活動に重きが置かれ、知識の共有、他者への共感、相手への思いやりといった読書体験の共有がもたらす新たな価値を地域に伝える努力が続けられて います。



「だっぴ in 鳥取」 Mail tottoridappi@gmail.com 電話 0857-37-3373
〒680-0945 鳥取市湖山町南 1-246



大人の誰もがかつては若者で、様々な決断をしていまを生きています。そしてこれから大人になる若者たち。そんな大人と若者とが、本音で語り合える場を作ろうとしている大学生を取材しました。

だつびプロジェクトは、若者が今まで知らなかつた生き方や働き方を知り、それまでの自分から「だつび」して自分の生き方を考えるきっかけをつくる活動をしています。代表の森さんは、以前から漠然と何かしたい、自分の考えたことを形にしたいと思っていました。その時ちょうど山で行われていた同活動を鳥取でも始めようという立ち上げメンバーに誘われ、1年前にプロジェクトを始めたことになりました。現在のメンバーは鳥取大学の学生6名で、毎週集まり、学生と社会人が気軽に話せる場づくりの企画をしています。

まずはゲストとなる複数の社会人を決め、そのゲストを知るため事前にインタビューします。ゲストにはP.O代表や銀行員、カフェ店主などの多種多様な職種の方を選び、当日は1グループ5、6人の座談会形式で気楽な話し合いの場を作ります。想定外の展開もあるそうですが、自分達が考えた仕掛けが現実になるのが楽しいそうです。各回反応を見ながら次回について考えていきます。

その場にいる大人からもらうアドバ

若者と大人が立場に関係なく話をするなかに、人生のヒントが。

だっぴ in 鳥取

イスも参考にするそうです。特徴は、お互いの事を尊重しつつも本音で話し合える気楽な場を作っていること。若者と大人が立場に囚われずに交流するうちに出るたわいもない話。実は、そのなかに人生の本質を突く言葉もあり、若者にどうて印象に残る人生のヒントが隠されています。若者が先生や親以外の人と話す機会は意外に少ないもので。参加者は、社会で活躍する人と出会うことで、日常生活や自身を振り返り、自分の引き出しにはなかつた話に興味を抱き、刺激を受け、人生の選択肢を増やしていくます。

を休学して静岡県熱海市に住み込ながらインターンシップといふ形で1年間NPO職員として働いている時でした。当時の僕は慣れを感じてきた仕事に退屈さを覚え、さらには自分の意志で休学して熱海に来たにも関わらず、何をしに来たのか、何をしたかったのか、わからなくなったり悩んでいました。そんな時期に手に取つたのが、時代の寵児と呼ばれたホリエモンこと堀江貴文氏が出版したこの本です。全てを失い『ゼロ』になつた堀江氏が『働くこと』の意味を語り、「失敗をしてもゼロに戻るだけでマイナスにはならない。小さなイチを足していくだけが自分に出来ることだ」というメッセージを伝えようとしている内容でした。



「Book Cafe ホンバコ」
〒680-0833 鳥取市末広温泉町154
鳥取駅より徒歩5分。バス停「本通り」より徒歩1分
TEL 0857-50-0573 URL <http://honbako-tottori.com/>

その1 「境港の棒菓子」の巻。



懐かしい味、というものがあります。甘い、とか、ほろ苦い、とかではなく、美味しい、とも違う。初めて食べたのに、あ、懐かしい！そういう瞬間が、きっと誰にでもあるんじゃないかな。境港の棒菓子も、そういうお菓子です。棒菓子

を作り続けている、境港市上道町の大西かつよさんを訪ねました。

棒菓子は、はったい粉（大麦を炒って挽いた粉）に煮詰めた糖液を混ぜて固めたお菓子です。別名、麦つぐね。上道地区には昔から当たり前のようにあるお菓子でした。大西さんは、一時作られなくなっていた棒菓子のレシピを人から受け継いで復活させました。「みんなで朝市をやっていたんだけど、これが一番人気だったよ。今でも毎年頼まれて作っているの。」

レシピ自体はいたってシンプル。水飴、バター、練乳、はちみつを混ぜて火にかけ溶かす。そこにははったい粉を入れて混ぜ合わせ、よく練って、それを小さな塊にして丸めて伸ばし、ある程度乾かして好みの長さに切って乾かす。仕上げにははったい粉をまぶす。

良されて人々に届けられています。懐かしい！自分の中に眠っていた温が、口の中の味とクロスする瞬間、幸せになるのです。

「(作るのに適した)季節があってね、
えば湿度があると固まらない」。そう、
切なのは「具合、頃合い」。季節によっ
てその日の天候によって、材料の種類や
量、時間の頃合いをその都度変えるそ
です。「たかが棒菓子、されど棒菓子」
大西さんは言います。このお菓子の懐
しさは、このような気配りが生み出す
定感にあるような気がします。

大西さんのレシピは、現在は境港にある社会福祉法人に伝授され、あらたに改良されて人々に届けられています。懐かしい！自分の中に眠っていた温がが、口の中の味とクロスする瞬間、人幸せになるのです。

写真協力：まつぼっくり事業所（境港市）
棒菓子は現在も同事業所で、「はったいこ飴」
名称で製造されています。

特集：考える。を考える



「部落解放研究第43回倉吉市集会実行委員会(倉吉市役所人権局)」
Mail jinkenseisaku@city.kurayoshi.lg.jp 電話 0858-22-813



今回、
〔部落解放研究會告市集〕

今回、「部落解放研究倉吉市集会」を取材する前には、タイトル通り「部落解放の集会」という認識でした。しかし、そのイメージはいい意味で見事に裏切られ、鳥取県内でのような集まりが43年間も続いていることに感動すら覚えました。

本集会は普段角がはもどり、そのあゆみに学びながら、一人ひとりの個性や多様性を尊重し、あらゆる差別を許さない家庭、地域、学校、職場づくりを進めるため、交流を通して学習や実践を深め合う市民集会として開催されるものです。つまり、「部落解放」はあくまでも開催のきっかけになつた一テーマに過ぎず、現在は男女共同参画、障がい、高齢者、子ども、職場・等々、私たちの日常生活における「基本的的人権」に関する問題を多様な主体が集まり考える場となっています。

お互いの意見や主張を尊重しながら、地域の将来につながる議論を。

部落解放研究第43回 倉吉市集会実行委員会

個別具体的な部分は時代の流れと共に変化し、新たに発生するケースも多く、その意味において本集会の実行委員の多様性は、より時代を反映し易い体制となっていることに感謝を受けました。正に「人権」における市民と行政の「協働」の取組みとなつてゐるのです。分科会の運営に関しても、参加者が必要以上に慎重になり過ぎて意見や主張を控えることのないよう、お互いの意見や主張を尊重しながら地域の将来につなげられるような本質的な議論ができるよう工夫が盛り込まれており、43年間続く集まりになつてゐることも納得いくものとなっていました。



取材場所 「レストラン＆カフェ 白壁俱楽部」
鳥取県倉吉市魚町 2540 電話 0858-24-5753



大月 悅子さん

1946年鳥取県鳥取市（旧ハ頭郡河原町）生まれ 鳥取県男女共同参画をすすめるネットワーク 会長

今年の年齢では何を考えた方がいいの？どう考えた方がいいの？そのヒントを探すために、大先輩の大月さんに聞いてみました。

それぞれの20代の日々について教えてください。

永栄 南部町出身なので、20代の今、鳥取市内でひとり暮らしをして大学に通っています。バイトが終わる時間が遅いので、24時間開いているスーパーによく買い物に行きます。休みの日はDVDを借りてきて家で観たり、友達と海に行って花火やバーベキューをしています。

大月 20歳の頃は鳥取赤十字の看護学校に通っていました。高校卒業して3年間通つてから鳥取の病院で働きました。また、赤十字奉仕団活動に一生懸命取り組んでいました。看護学校の頃は、寮制で門限が9時と厳しくて。今だら考えられないでしょう。

高校卒業後、県外に出たいとは思いませんでしたか？

永栄 1～2年生の頃は出たかったけど、今は鳥取でよかつたと思っています。研修でインドネシアに行つたことがあるんですけど、そこにはゴミ問題があるんです。私はそれを解決しないといけないと思っていたのですが、現地の人はそれを問題と見つこと自分が少ないと言われて。私は鳥取の外を見ていたけど、その前に鳥取のことを全然知らないと気づいたんです。それで鳥取でのイベントのボランティアなどに関わってみたらおもしろい。知らないから県外に出たいと思っていたのかな。

大月 周りで都会の大学に進んだ人はたくさんいました

女性を取り巻く状況の変化について、大月さんと対話して、考える。

考える
ヨ。

たので、（卒論のテーマとして）自分が教育の中のどの部分に関心あるのか模索しています。

大月 社会ばかりじゃなくて、学校の勉強もすごく大事なことと思うんです。知らないんじゃなくて知っているプロセスなので、自分の生き方を否定しなくてもいいと思う。大学では一番は勉強だけど、友達関係、人との関係がすごく大事。それを飛び越えて社会と焦らないでほしい。いろんな人と出会って、方向性を見つけていくのがいいかなと思います。

大月さんは男女共同参画に関する活動をされていますが、女性に対する差別は今と昔で変わりましたか？

大月 1985年に日本が女子差別撤廃条約に批准し、その年に雇用機会均等法ができましたが、今でも男女間の賃金格差などあります。男性は外、女性は家で家事育児といふことへの賛否のアンケートをずっととっているけど、半々なんです。長い運動をしているので反対が多くなると思うのに、変わらない。女性にも男性にもまだその意識が根強いんですね。日本は女性の政治や社会への参加率が低いし政治家も少ない。女性が立候補しようとしても金銭面の問題や家族の反対も多いので、なかなか難しいんです。男性が立候補するときは、家族の理解についてあまり悩まないと思うけど、勉強するのも大事だけど、社会を変えていくと思うと「仕組み」を変える力も大事なので、大学生にはそのあたりに参画してほしいなと思いますね。

永栄 政治は、今まで関心はあつたけど知らないこと

けど、看護学校はその病院で働くという前提条件があるので、鳥取で就職するのが当たり前のんです。私はその後、物足りないと思って東京に出て、3年くらい働いたんだけど、まだ物足りなくて1年間看護学校の教員になつて、ちょうど永栄さんたちと同じ年頃の人たちを教えていましたね。

永栄 私は今3年生なので、卒論や就職を考えないといけない時期なんです。やる気はすぐあるんだけど、いざ卒論のテーマを考えると全然決められなくて。社会の問題について、なんとなく問題意識はあるけど当事者意識が持てないんです。社会のことを知らないなあと落ち込んでしまつて。今まで、将来何したいか真剣に考えないままここまで来てしまつたな。

大月 決まっていないのがいいなと思います。決まっていたら面白くないじゃないですか。目移りする楽しさがある。今はその楽しさが好きですよ。それを苦痛じやなくて楽しく思った時に、ストレインと胸に落ちるものがあるかもしれません。わからないなといふことは勉強するチャンスがいっぱいあるでしょ。

大月 決まってないのがいいなと思います。決まってたら面白くないじやないですか。目移りする楽しさがある。今はその楽しさが好きですよ。それを苦痛じやなくて楽しく思った時に、ストレインと胸に落ちるものがあるかもしれません。わからないなといふことは勉強するチャンスがいっぱいあるでしょ。

永栄 学校の中では勉強してなかつたのかなと感じていて。教科書の知識はちゃんと勉強していたけど、それ以外のことは知らないことが多かつたな。でも大学に入つても高校までと同じことをしている感じがあるんですね。周りを見渡しても、みんな単位をとることに必死で。それで、日本の教育には課題があるなと思うようになります。



渡部 WATANABE Mariko

万里子

万里子

NPO法人 なども未来ネットワークへ

理事長



現在、関わっている活動を教えてください。

きたことの実践の場とも言えます。キャンドルナイトは、東京の環境NGOの「100万人のキャンドルナイト」に呼応する形で2003年から仲間と共に取り組み始めました。「暮りす」を考えるきっかけになる企画を自分たちで作り、何より楽しみながら意識を高めたり、人に伝えたりしています。活動を始めてから、世の中の意識がどんどん変わっていくのを肌で感じてきました。震災や原発事故もあつたし、自分たちのやっていること以上に世の中の意識が変化しました。続けてきたことにも意味があつたと思うし、新しく変わっていく必要性を感じています。20回目を迎えた今年、小さくて大きな変化を取り入れるつもりです。

るか。それが子どもの体験知となると思つて
います。その体験知が減少していることが、
子ども未来ネットワークのすべてのプロジェクト
クトの根底にある危機感です。子どもたちが
地域で嬉しい体験をする。それは意識せずと
もその子の大事なものとして必ず残つていく
と思います。自分の育つた街にはあんな人が
いるとか、こんな思い出があるといふことが
子どもを育てていく。そんな機会とできるだ
け多く会わせて、記憶を作りたい。その中に、
地元らしさ、鳥取らしさをどれだけ残せるか
は私たち大人が真剣に考えなくてはならない
ことだと思つています。

活性化センターにどのように関わつていきた
いですか?

NPO法人や任意団体、個人、様々な形態の
活動をしていくからわかる苦労や問題点があ
るなと思います。市民活動をしている立場か

センターへ期待することを教えてください。
に反映できればと思っています。

とっとり県民活動活性化センターからのお知らせ

担当：椿（西部とっとり創生支援センター）



地域づくり

8月29日(土)～31日(月)「第33回地域づくり団体全国研修交流会石川大会」が開催され、鳥取県からは19名の地域づくりに関わる皆さんで参加してまいりました。今後、本大会で得たことを鳥取県内にしっかりと還元してまいりたいと思います。ご期待ください！



担当：池淵



NPO

NPO の事務力向上や基盤強化のための講座を開催しています。秋～冬にかけてはガバナンスやマネジメント、マーケティングに関する講座も予定しています。現場で力になる講座とは、どれだけ活用してもらえるか、日々考えています。

担当：谷（中部とっとり創生支援センター）



ボランティア

これまでにボランティア講座「移動フォーラム in 大山」の開催、また「子ども・若者ボランティア企画助成事業」では大学生 2 団体に助成金の交付等を行いました。今後はとりボラ委員会やボランティアネットワーク会議を開催して、ボランティアについて考える場を作っていくます。

担当：寺坂（東部とっとり創生支援センター）



「とつとり創生支援センター」のリーフレットができました！

東・中・西部の相談窓口のリーフレットができました。



事務局長：毛利



センターの愛称とロゴマークが決定しました！

「てをとりあって、とつとりの元気づくりに取り組もう」という心意気です。みなさまに親しまれ、ともに歩むセンターを目指します。

ご意見・ご感想お待ちします。

*高校生がボランティアに興味を持っていることがとてもほほえましい。将来が楽しみ。(40代・女性)
***女性の視点での紙面、とても読みやすかったです。これからも女性目線を期待しています! (30代・女性)
***まだ結婚のことや子育てのことなど考えたことはなかったけれど、やはり子育てと働くことは難しいことがわかりました。(10代・女性)
***なんというか、ほんわり和やか暖かみのあるといった雰囲気を全体から受け、写真・レイアウトなど良いと思った。内容もじめで目の付け所が面白いと感じた。(40代・男性)
***創刊号、第2号、第3号と併せて読むことで「とっとり県民活動活性化センター」が「行動」を支援する一つの方法として情報誌を発行していることがよく分かりました。(60代・女性)
***鳥取県で起こっている問題に関する実情やそれに対する支援として多様な組織が活動していることを知り、勉強になりました。(20代・女性)
***いろいろな角度から鳥取県に魅力的に貢献されている姿が誌面を通して伝わってきます。たくさんのNPO、団体の存在に驚きました。自分の子育てを振り返って、子育て面は追体験のように、又はこんな環境で育てられたら素晴らしい等と思いを持ちながら興味深く読ませていただきました。(50代・女性)



【編集後記】

今回のテーマは、「考える。を考える」でした。戦後70年、地方創生元年の夏、国や地域の未来とともに、自分自身の暮らし方や振る舞いについて、深く考えた方が多かったのではないかでしょうか。

地域づくり活動や市民活動は、ある時は問題にぶつかった当事者として、ある時はちょっとした興味から、ある時は誘われて断れなくてなんとなく、ある時は心を揺り動かされてはじまる。そして、悩んだり、解決に立ち上がる当事者や支援者など様々な人々と出会い、交りあい、語らう中で、これまで知らなかつた私(私たち)を発見し、ようやく「私(私たち)には何ができるか」「私(私たち)は何をなすべきか」という“問い合わせ”にたどりつく。

「考える」行為は“答えに至る問い合わせ自分の中に立てるプロセス”と言われます。共に「考え」、次の一步を踏み出す機会を広げていきたいと思います。

(毛利葉)

いまとこれからのとっとりのためのボランティア・地域づくり・NPOを考える情報誌

「いまと、これから。」 2015年10月31日発行（第4号）

発行：公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター

発行人：山根到 編集人：毛利葉 取材・編集：寺坂純子、椿善裕、谷祐基、尾崎可愛、世瀬あけみ、河上奈名子、小谷純子、小原み幸、八幡徳弘、梅野みぎわ、岩船郁、池淵菜美
デザイン：石原達也 写真：市川貴美江
表紙モデル：大学生の永栄早紀さんと編集部のいつか大学生だった人たち

お問合せ：公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター

〒682-0023 倉吉市山根 557-1 パープルタウン2階

TEL 0858-24-6460 FAX 0858-24-6470

E-mail info@tottori-katsu.net URL http://tottori-katsu.net/